

不整脈治療最前線 ～進化するデバイスを どう使いこなすか?～

企画：近藤祐介

(千葉大学大学院医学系研究院
循環器内科学)



HEART's Selection

不整脈治療におけるテクノロジーの進化は、とどまることをしらない。デジタル・ヘルスの分野では、Apple Watchをはじめとする多くのウェアラブル・デバイスが世の中にあふれるようになり、それらが日常診療の中にも顔を出すことも珍しくない。その目的と使用方法について頭を悩ませている先生方の話をよく耳にする。また、スマートフォンの普及により、アプリを用いた遠隔診療が可能となってきた。その中でも、ペースメーカや植込み型除細動器の植込み後のフォローとして遠隔モニタリングは、対面診療が制限されていた COVID-19 の流行期には非常に威力を発揮した。一方で、膨大なデータを管理する側の医療従事者の環境整備が、テクノロジーの進化についていけない側面もある。

いまや最もありふれた不整脈として心房細動が挙げられるが、その治療においてもテクノロジーの進化は目を見張るものがある。カテーテルアブレーションでは、高周波・冷凍凝固(クライオ)・レーザーでの焼灼に加え、迅速かつ安全に心筋のみを標的とできる“Pulse field ablation”が開発され、first-in-man の成績が出てきた。さらには、心房細動から脳卒中を守るための抗凝固療法の代替療法として注目されている経皮的左心耳閉鎖術についても、新たなデバイスが欧米で続々と臨床使用されてきており、今までの標準治療がもはや標準ではなくなりつつある。

今回、“進化するデバイスをどう使いこなすか?”をテーマに不整脈診療の最前線で活躍されている4人の新進気鋭の先生方をお招きして、座談会を開催した。デバイスの進化の裏にある諸問題についても切り込み、非常に有意義なディスカッションとなった本企画が、読者の皆様の日常診療の一助となれば幸いである。